

RSV 抗原		3904300		
RSV 抗原		担当部署		
検査オーダー		微生物		
患者同意に関する要求事項		該当なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*7.特殊細菌→		
	2	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→		
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		<p>ヘモグロビン (0.25%) 及び添付文書に記載の一般用医薬品、処方薬に関して、記載した濃度では判定への影響が認められなかった。</p> <p>添付文書に記載の細菌・真菌及びウイルスとの交差反応は認められなかった。</p> <p>確定診断は、臨床症状や RT-PCR 等、他の検査結果と合わせて担当医師が総合的に判断して行うこと。</p>		
検査受付時間		緊急対応 (24 時間)		
検体採取・搬送・保存				
患者の事前準備事項		該当なし		
検体採取の特別なタイミング		特に無し		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1	鼻腔	細菌 綿棒 3	なし	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
検体搬送条件		<p>室温</p> <p>採取後直ちに提出</p>		
検体受入不可基準		<p>1) 検査ラベルがない検体</p> <p>2) 専用の綿棒以外で採取された検体</p> <p>3) 乾燥した検体</p>		
保管検体の保存期間		保存不可		

検査結果・報告

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		当日中				
生物学的基準範囲		陰性 (-)				
臨床判断値						
基準値					単位	なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因		該当なし				
臨床的意義		<p>世界中に存在し、地理的あるいは気候的な偏りはなく、乳幼児の感染が多いことが特徴である。わが国においては 11 月～1 月にピークに達し、小児の細気管支炎や肺炎の原因となる。飛沫感染により、上気道粘膜上皮に感染し増殖する。乳児期、とくに生後 6 カ月未満では細気管支炎や肺炎を発症することが多く、成人では軽症である。</p> <p>「 JAMT 技術教本シリーズ 臨床微生物検査技術教本 2017 年」</p>				